

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

熊本地震の発生から既に1ヶ月が経過したにも係わらず、未だ余震等が続いており、被災地の皆様におかれましては不安な日々をお過ごしのことと存じますが、心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の早期復興に向けて、全国各地より救援活動が現在も行われていますが、そもそも日本は地震大国であり、マグニチュード6.0以上の約2割が我が国周辺で発生している事を踏まえれば、この地域においても、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模自然災害が、いつ発生してもおかしくない状況下にある事を、私達は再認識する必要があります。

愛知県においては、5年前に発生した東日本大震災の教訓を活かし、現在は平成26年12月に策定した『第3次地震対策アクションプラン』に基づき、地震から県民の生命・財産を守る強靱な県土づくりを本県の地震防災の目標として掲げ、「命を守る」「生活を守る」「社会機能を守る」「迅速な復旧・復興を目指す」「防災力を高める」を対策の柱とし、地震に強い安全な地域作りを目指して対策に取り組んでおります。

しかしながら、熊本地震における被害状況を見ると、震度7クラスの大規模地震が複数回発生を前提とした耐震化の在り方や、自然発生的に設置された指定外避難所への対応、更には救援物資の運搬方法など、考慮すべき課題は山積み状態にありますので、今後は早急に『第3次地震対策アクションプラン』を見直し、更なる安心・安全な街づくりを目指していかなければなりません。公助には限界があります。

従って、自らの命は自らで守る『自助力』と、互いの助け合いである『共助力』を高めるため、地域の絆を大切に、市民の皆さん全員で考え行動する必要があります。



愛知県議会議員

こたま よしかず
樹神 義和 樹神